２０２４年度（令和６年度）学校評価自己評価表

城西中学校区	校番９	福山市立　泉小学校
	最終更新日	2024 年（令和６年）10 月１日

Ⅰ　福山市

ミッション　　福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン　　「福山１００ＮＥＮ教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「２１世紀型“スキル＆倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

Ⅱ　中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容

○学習に対する取組みでは、各校とも児童生徒が意欲的に授業に取り組んでいる様子が見られ、一定の成果が出ている。
○これまでできなかった様々な活動や行事ができるようになり、子ども達が生き生きとしており、楽しく学校生活を送っていると感じられる。
●読書活動や書く活動など、小・中学校が連携して取り組むことで、児童生徒の読む力、表現力の向上を図っていくことが大切である。

児童生徒の現状

○「子ども主体の学び」を目指し、小・中学校が連携して研究・実践を行い、授業改善を進めており、児童生徒の授業に対する意欲、積極性は高い。
○行事等を通して、小・中学校とも集団づくり、児童生徒の主体的な活動に取り組んでおり、意欲的に頑張る児童生徒は増えている。
●読書活動や書く活動の充実に取り組み、児童生徒の表現力を高める必要がある。
●小・中学校が緊密に連携し、引き続き不登校生徒減少への丁寧な取り組みが必要である。

育成する力（21 世紀型“スキル&倫理観”）	コミュニケーション力・表現力・忍耐力
めざす子ども像（義務教育修了時の姿）	地域に愛着と誇りをもち、心豊かにたくましく生きる子ども
中学校区として統一した取組等	○自己肯定感を高める。（小中合同ボランティア活動・中学校オープンスクール） ○コミュニケーション力・表現力・忍耐力をつける。（校区公開授業研究） ○健康への意識を高め、体力向上を図る。 （体力向上の取組・体力テストの分析・生活改善の取組・校区保健だよりの発行）

Ⅲ　自　校

ミッション

児童が自ら学び、相互にかかわり高め合う教育活動を行うことで、次世代を担う人材を育成する。

学校教育目標

自ら学び、仲間とともにたくましく生きぬく子どもを育てる

現　状

＜児童生徒＞
自己表現の仕方やコミュニケーションの取り方に課題がみられる。問題解決にむけて、児童一人一人の思いに寄り添いながら取り組んできているが、朝、定刻に登校することが難しい児童もいる。また、学力面においては、各種調査において、結果を上回る学年があるものの全体的に読解力や活用問題に課題がみられる。新体力テストは、走力や柔軟性などに課題がみられた。体育の授業でこれらの課題が改善できる運動を取り入れて実施している。

＜授業＞
・個別最適な学びを取り入れ、児童の振り返りから授業改善に取り組んだ。引き続き、アセスアンケートや児童の振り返りから、「児童一人一人の学びやすさ」を分析し、学びの環境づくりに取り組んでいく。
・職員が実践交流や教材研究を計画的に行い、児童が成長を実感できる振り返りを実践した。さらに、学校全体で振り返りの視点を明確化して、児童がより成長を実感し、次の学びにつながるように取り組む。

育成する力（21 世紀型“スキル&倫理観”）		コミュニケーション力・表現力・忍耐力
めざす子ども像	全学年	○自分や他者を理解し、自ら考え判断し、表現する子ども ＜表現力＞ 様々な場面で言葉や技能を用いる。 信頼できる知識や情報を収集し活用する。 ＜コミュニケーション力＞ 目標を達成するために、他者と協働する。 意見の対立や理解の相違を互いの違いを認め合いながら解決する。 ＜忍耐力＞ 感情をコントロールし、ルールを踏まえて建設的な意見を述べる。 見通しをもって計画的に行動し、軌道修正しながら最後までやり遂げる。
研究	テーマ	学ぶことへの面白さを感じ、学びに向かう力を伸ばしていく授業づくり
	内容等	・「学びが面白い」と実感する個別最適な学びの実践 ・子ども・教材への理解を深める教材研究
めざす授業の姿		・個別最適な学びを通して、子どもたちが面白さを感じられるような授業 ・個別や仲間との学び合いを組み合わせ、課題解決していく授業 ・個の学びを見取り、児童が「できた」「わかった」「次はこうしてみたい」という思いや自信がもてる授業

Ⅳ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立　　泉小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日） □指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	最終評価（2月末） □指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
３	課題を見出し、解決に向けて挑戦する意欲と諦めずに学び続ける力を付ける。	★	継続	児童一人一人の知っていることを生かした学びを展開し、児童が自らの伸びや成長を実感することができる。	・個別最適な学びを取り入れ、児童の学習の振り返りから授業改善に取り組む。	・児童アンケート【学びが面白い】肯定的回答85%以上	・児童アンケート「学びが面白い」（7月）90% …個別最適な学びを取り入れ、児童の「学びにくさ」と「足場かけ」を想定した授業を実践するとともに、児童の振り返りから授業改善に取り組んだ。	３	３	・アセスアンケートや児童の振り返りから、「児童一人一人の学びやすさ」や「障壁の要因」を分析し、学びの環境づくりに取り組む。また、授業改善シート等で授業づくりについて職員間で定期的に協議する。					
					・教材研究を深めるために、研究体制の刷新を図った授業づくりを行う。学校全体で振り返りの視点を明確化し児童が学びの成長を実感できるよう取り組む。	・児童アンケート【成長実感に関する項目】肯定的回答85%以上	・児童アンケート「成長を実感している」（7月）89% …職員で実践交流や教材研究を計画的に行い、児童が成長を実感できる振り返りを実践した。	３	３	・授業や学びタイム、家庭学習で「言葉の習得」を意識した取組を取り入れ、児童の語彙力を増やすことで、成長実感につなげる。 ・学びのUDの考え方を取り入れた授業の実践や実践交流をすることで、児童に合った学びを展開する。					
３	誰もが自分らしく学ぶことができる学校づくりに貢献できる。	★	継続	学校生活をよりよくするために、自分たちができることを考え行動することができる。	・日々の生活や行事等様々な場面で、相手意識をもたせてコミュニケーションの機会を設定する。	・児童会や委員会、各学級から全校へ取組の発信や、学校生活をよりよくしようと主体的に行動している児童の紹介（評価）を月に5回以上行う。	・児童会や委員会、各学級から全校へ取組の発信や児童の紹介を月に10回以上行うことができた。また、教職員から学校全体の成果や課題について週に1回放送し、共通理解を図ることができた。	３	４	・学校や学年、学級、さらには個々の成果や頑張りを放送し、共通理解・自己肯定感の向上を目指す。 ・教職員からの学校全体の成果や課題の放送を継続して行う。					
					・アセスアンケートを実施し、児童の学校適応度を見取る。	・生活満足感の数値が40以下の児童5%以下	・生活満足感の数値が40以下の児童は4.9%だった。目標数値を達成することができた。	３	４	・アセスアンケートの結果を踏まえ、アセスメント会議を実施し児童への支援方策を担任だけが考えるだけでなく教職員で共有する。					

３	自ら進んで健康保持、体力向上に努める。		継続	健康診断、体力テストの結果等から、自らの健康について課題意識をもち、改善に向けて取り組む。	・健康診断、体力テスト等の結果から、自身の課題を明確にし、改善するための取組内容・方法を決めて改善に努める。	・自身の健康面・体力面の課題を明らかにし、改善計画を作成し、実行している児童８５%以上	・児童アンケート「自分は、健康診断、体力テストの結果から、目標をもって、取り組んでいる。」（7月）８６% …「チャレンジメディア」や「ステップアップカード」の取組を通して、自身の課題を見付け、改善に向け取り組むことができた。	３	３	・「生活リズムアンケート」の結果等から、メディアの使い方や、就寝時間についての課題を、教職員同士で確認し、共通意識をもった上で、継続的に児童・保護者に呼び掛けていく。 ・「めざせ！体力アップ」を活用し、児童自身が自分の苦手な動きに対しての目標を決め、取り組んでいく。					
					・定期的に全校遊びや体力づくり週間を企画し、継続した体力づくりに取り組む。	・運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツが「好き・やや好き」と回答する児童８５%以上	・児童アンケート「自分は、スポーツや体を動かすことが好きである。」（7月）８５% …全校遊びや体力づくり週間等の取組は実施できていないが、運動会等の体育的行事や、休憩時間の外遊びを通して、体を動かす児童が増えた。	３	３	・体育委員を中心に、校内遊び等を計画し、児童が体を動かす楽しさを感じられるようにする。 ・体育科の授業において、校内研修等を実施し、児童が主体的に取り組める授業づくりに向けた授業改善を図る。					
１	教職員が児童に元気を与え、職務にやりがいを感じることのできる職場環境を醸成する。		新規	自らの個性や能力を発揮する場を設定する。	・教職員が、日々の取組、自分の得意分野等について、文書や動画に年間２回まとめ、教職員間で交流する。	・教職員アンケート「仕事にやりがいを感じている」９０%以上	・教職員アンケート（８月）92% …夏季休業中に、２つの視点（①主体性を育む学びづくり、②学びにくさを意識した授業づくり）から、各教職員が１学期の実践を書面や動画にまとめ、全体で交流をする中で、自分の業務を振り返り、今後の取組への見通しをもつことができた教職員が増えた。	３	３	・教職員が、「自ら伸びる」という姿勢で業務を進められるよう、今後、さらに一度、実践まとめと交流の場をもつ。 ・各部会や各担当者間でコミュニケーションを深める仕組みを整えることで、管理職や職員間で、相互の業務についてフィードバックしやすい雰囲気をつくる。					
				ワークライフバランスのとれた業務と生活	・会議や校内研修の内容精選、職員室環境の整備等に取り組み、各教職員が授業づくりに集中できる環境をつくる。	・時間外在校時間「年間３６０時間以内」９０%	・時間外在校時間　360 時間（上半期 180 時間）以内 57% …日々の 18 時の退勤への相互声かけ、週１回の定時退勤日の徹底などを通し、業務時間の改善は進んでいる。	３	２	・時間外在校時間月４５時間以内はほぼ１００%であるが、年間換算としての月平均３２時間（年３６０時間）以内は、難しい現状がある。そのため、業務の平準化をさらに進めることで、業務の偏りを改善する。					

［プロセス評価の評価基準］

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

［達成評価の評価基準］

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し，十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し，望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し，一定の成果をあげた。
2	目標を下回り，成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り，成果が認められなかった。

［総合評価の評価基準］

評点	評価基準	
5	１００％以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	８０％以上１００％未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	６０％以上８０％未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	４０％以上６０％未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	４０％未満の達成度	目標を達成できなかった。